

# 東日本大震災 関連情報（第 26 報）

平成 24 年 1 月 18 日  
全国老人クラブ連合会

## ●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

岩手県老連で、仮設住宅への訪問活動が始まりました。

- 岩手県老連では、県の委託事業として「被災地高齢者友愛支え合い事業」を 12 月から実施しています。この事業は、仮設住宅における友愛活動を被災地である沿岸部 10 市町村で実施するものです。いち早く取り組んだ岩泉町老連の活動は、テレビや新聞で広く紹介されました。  
(別紙「岩手日報」参照)

福島県から「応援ありがとう」の写真が届きました。

- 福島県老連から元気袋への感謝の気持ちをこめた「応援ありがとう」の写真が届きました。下記の 3 葉の写真データを別添メールで送りますので、各老連で自由にご活用ください。（なお掲載した現物は、福島県老連へお送りください。）
  - ① 福島県老連では高齢者による子育て支援事業に力を入れています。今年は、大震災や原子力発電所事故のため避難し、仮設住宅に暮らす子どもたちを対象に高齢者と子どもたちが交流を図る「地域の寺子屋推進事業」を実施しています。この事業に参加してくれた子どもたちに「元気袋」を贈呈しています。「元気袋」をもらった子どもたちは大喜びです。写真は、大玉村の仮設住宅で事業を行った時の様子です。
  - ② 福島市もちずり地区老連（会長：斎藤英一）主催子育て支援事業で元気袋をプレゼントした時の様子です。
  - ③ 国見町寿クラブ連合会（会長：佐久間靖明）では、単位クラブ役員と若手委員などが協力して、「元気袋」を全会員 739 名に配布して全国各地の老人クラブ会員のまごごろを届けました。

全老連セミナーで、福島県飯舘村老連から状況<sup>いいいでむら</sup>を報告いただきました。

- 1月12日から開催した地域支え合いセミナーにおいて、原発により全村避難命令がでている飯舘村から、菅野益夫副会長（県内喜多方市に避難中）に現在の状況の報告いただきました。主な内容は次の通りです。

- ・7月 会員のおちつき先を訪ねて行く。どこへ行っても「寂しい」という声。県老連から、元気袋が全国から届いていることと救援拠金について聞き、「こういう時こそ老人クラブが立ち上がらねばならない」と意を強くする。各クラブの会長と、次の2点について申し合わせる。
  - ①会員のもとの住所に手紙を出して、現在の行き先を把握する。
  - ②全会員に元気袋を届けよう。元気袋はとても喜ばれ、涙を流される方もいた。
- ・9月 第2回目の会議を開催し、救援拠金の有効な使い方について話し合った。「絆」の文字を記した、新しい老連会旗を製作（写真添付）

<所属する関根松塚老人クラブの概況>

会員45人（準会員6名を含む）は散り散りになっている。震災後、村が借り上げた福島市内の宿に自費で集まり、1泊と2泊の2回集まりをもった。顔を合わせると、話しても話しても話さきれない。約7割の方が出席した。

このような状況だが、うれしいことに昨年10月と12月には、60代の2名が新会員として加わった。

## ●支援活動

- 元気袋のお礼状が続々届いています。 [徳島県老連]

徳島県老連の作成した元気袋は、宮城県老連をとおして塩釜市、気仙沼市へ届けられました。元気袋にははがきを入れていましたので、9月に送った直後から、お礼のはがきが届いています。現在、徳島県老連で把握しているだけで106通が、県内の会員へ届きました。

（別紙「徳島新聞」参照）